

NSB、国内外における科学工学研究状況に関するデータをまとめた報告書を発表（1月19日）

米国科学審議会（National Science Board : NSB）は1月19日、国内外における科学工学研究状況に関するデータをまとめ、2年に1回発表している報告書の最新版「2016年科学工学指標（Science and Engineering Indicators 2016）」を発表した。これによると、米国の科学工学関連企業は世界を主導し、米国は研究開発に対して世界最大の投資をし、科学工学分野の学位を最も多く付与し、インパクトの高い科学論文を最も多く発表し、最大の情報・金融・サービスを提供していることが明らかにされた。また、東南アジア・南アジア・東アジア諸国においては、科学工学各方面での急速な成長が続いており、今では世界の研究開発の40%が同地域で行われるようになっているが、中でも中国の台頭が著しいという。

なお、本報告書は、<<http://www.nsf.gov/statistics/2016/nsb20161/#/report>>から閲覧可能。

National Science Foundation, *U.S. science and technology leadership increasingly challenged by advances in Asia*

[http://www.nsf.gov/news/news\\_summ.jsp?cntn\\_id=137394&WT.mc\\_id=USNSF\\_51&WT.mc\\_ev=click](http://www.nsf.gov/news/news_summ.jsp?cntn_id=137394&WT.mc_id=USNSF_51&WT.mc_ev=click)